

市民・交流の足 バス等交通計画案

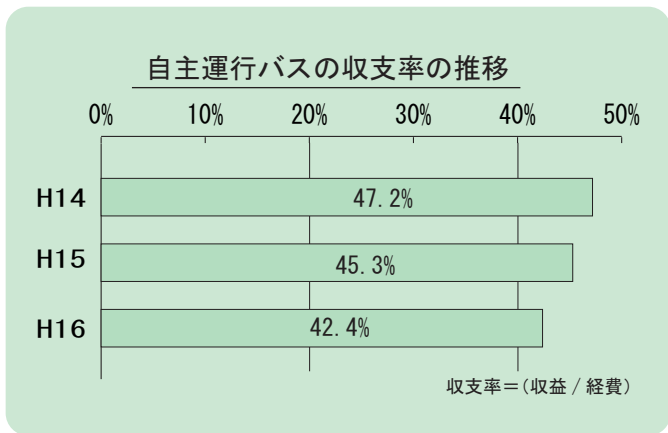


▲市民・地域の交流の足として欠かせないバス・鉄道（東野小野川バス停付近）

市では合併後のバス等交通計画を作成するため、バス等交通計画策定委員会を立ち上げ、利用者のアンケート調査などを行い、課題を整理して「バス等交通計画案」を作成しました。計画案は3つの基本方針をはじめ、利用者や地域性を考慮しながら具体的な方針をまとめたものです。この計画案に対するご意見、ご提案をいただき、効率的で利用しやすいバスや鉄道の計画を進めていきます。

バスなどの現状

現在、恵那市が運行しているバスは、道路運送法21条による自主運行バスが15路線、公営バスが2路線、病院・福祉センターバスが3路線、スクール・保育園専用バスが6路線と計26路線が走っており、有料である自主運行バスと、無料である公営バスというように各地区において路線、運賃などに違いがあり、それぞれの実情に合わせ運行しています。明知鉄道を含むバスなどの公共交通を取り巻く状況は、マイカー利用の増加によるバス利用者などの減少、少子化による通学児童の減少、地形的に駅を中心とした放射線状の路線などにより、赤字体質が解消されておらず、公共交通を求める利用



者のニーズに対応していないために利用も促進されないという悪循環が生じているのが現状です。

課題と方向

市内のバス交通においての課題および方向を、4つの点から検討しました。

バス運行の現状から見た課題

- バス路線の運行状況から見た課題から、次の3つを検討しました。
- バス輸送ニーズが高い山間部過疎地域への対応
- 利用促進を図り、市全体で収支率の目標を定め、改善策を講じる

輸送手段の適正規模などを考慮する

利用者・市民ニーズからの課題

アンケートおよび利用者の聞き取り調査の課題から、次の4つを検討しました。

- バスおよび鉄道の維持が望まれる
- 有料化に努める
- 運用について意見の集約できるような仕組みづくり
- バスの小型化、デマンド方式など新たな移動手段の導入

地区別に見た課題

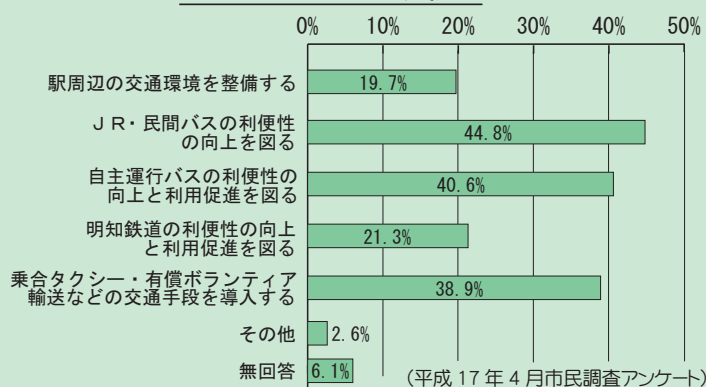
- 各地区のヒアリングの課題から、次の3つを検討しました。
- バス路線の再検討
- 明知鉄道とバスの接続、乗り継ぎ料金などの検討
- バス形態にこだわらない、新たな移動手段の検討

旧恵那市バス交通計画の進行状況の検討

合併前の平成13年度に「旧恵那市バス計画」を策定しています。その進行状況を踏まえた課題から、次の3つの検討が残っています。

- バス路線で補えない空白地域の解消
- 一般路線とスクールバスの兼用における是非の検討
- 恵那病院へ接続する路線の確保

市民が望む公共交通



基本的な考え方

本計画において基本方針を検討するに当たり、6つの基本的な考え方を定めています。

- バス交通を求める移動制約者の日常生活上の移動確保を図ります
- バス交通の施策は教育、福祉、医療などの観点からも総合的に講じていく必要があります
- 段階的施策を講じていく計画とします

あるべき方向を目指しながら、当面の実施方針までを明らかにしていきます

本市のバス交通については利用の対価を求める受益者負担の考え方をとります

公共交通の一つとして鉄道交通との連携を考えます

用語の解説

デマンド方式

利用者が電話などであらかじめバスの予約を行うことで、規定のバス路線の停留所以外でも迎えに行き利用することができる方式を言います。

ボランティア有償バス

過疎地における住民の生活交通や要介護者・身体障害者などの移動制約者の移動手段を対象として、バス・タクシー事業者によることが困難で、地方公共団体、バス、タクシー事業者、地域住民など地域の関係者が必要と合意した場合に設けることができるもので、市町村、NPOが有償で行う運送サービスを言います。

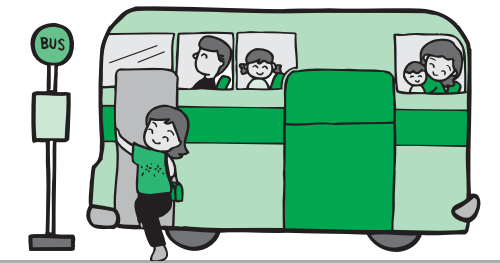
自主運行バス

民間バス事業者の営業が困難となり廃止される路線に市が費用を負担し、バス事業者に委託して運行するバスを言います。

委託バス方式

市がバスを所有せず、バス事業者にバス車両と運転を委託してバスを運行する方式を言います。

施策の体系図



【基本目標】

【基本方針】

【運行方針】

【運行施策】

【具体的な方針】

人と地域、そして人の心をつなぐ交流基盤づくり

1

より便利に心地よく、より多くの人が利用するバス交通網をつくります

1

市民の移動手段として通学、通勤そして通院や買物など目的にあったバス交通とします

2

より便利で高いサービスのために、将来における多様な移動手段の導入を検討します

2

鉄道と結ぶバス網をつくり、乗り継ぎシステムをつくります

3

明知鉄道などとの乗り継ぎの円滑化を図ります

3

最小費用で最大満足が生じるように、バス交通に工夫を加えていきます

4

利用に応じたコンパクトな路線と適正規模の車両運行、適正な料金による運行を図ります

利用状況による路線ルート、時刻表の再編を行います

公平な利用を促す運賃有料化を図ります

生活圏移動の円滑化のためのまちなかバスを設定します

バリアフリー化を推進します

NPOなどボランティア有償バス導入の検討を方向づけます

明知鉄道駅、営業バス路線との乗り継ぎシステムをつくります

運賃割引制度の導入を検討します

委託バス方式を導入します

分かりやすく利用しやすい料金体系とします

スクールバスとの兼用を図ります

地域産業の育成を進めます

串原線については、路線と便数の必要を検討し、一部路線にデマンド方式の取り入れを検討するためのモデル実験を行います。

上矢作線、小野川線についてはバス便数の調整を行い、再編を図ります。

恵那病院線については利用促進のための再編を行い、また市街地東部の路線を検討し、市民ニーズに対応した恵那コミュニティバスとして利用促進を図ります。

山岡カラフル号、ひまわり号、岩村福祉センターバスについては誰もが利用できる路線に再編し有料化していきます。上矢作病院バスについては県外からの利用もあり、諸事情に配慮しながら有料化を検討します。

誰もが利用できるまちなかバスを、岩村、明智、山岡地区そして恵那市街地（恵那コミュニティバス）に設定し、停留所の設定や時刻表の見直しを行い利用者の利便を図ります。

明知鉄道各駅やバス車両においてバリアフリー化を検討し、ソフト面のサービス向上にも努めていきます。

将来的には自主運行バスの比重を小さくし、改正道路運送法に基づくボランティア有償バスなどを取り入れ、地域が地域の手で移動制約者をなくしていく地域社会をつくり、高齢社会における地域福祉を実現していきます。

乗り継ぎ拠点駅を設定し、円滑な乗り継ぎが可能なように時刻表、運賃などに配慮し鉄道とバスの一体化を図ります。

山岡線については明知鉄道山岡駅での乗り継ぎと営業路線の乗り継ぎ、さらに便数を限定した高校生通学のための瑞浪駅直行路線を運行します。

恵那駅直行路線を持つ上矢作線は現況では明知鉄道の乗り継ぎが不十分のため、高校生の通学路線の確保のために、便数を限定して鉄道の改善が実施されるまで暫定運行します。

利用促進のための乗り継ぎ割引制度の検討を行います。また小学生のバス利用を促すための割引制度の導入などを検討します。

自主運行バスおよびスクール専用バスは委託方式とします。現在の市所有バス8台は更新時まで活用し、その後随時委託方式に変更していきます。

統一運賃を原則としながら、一度に統一ができない場合は段階的な導入も検討します。

スクール専用バスも走っていますが、効率的なスクールバスの活用として一般客も利用できる兼用スクールバスを検討します。

多様化する移動手段の運営に対応できる事業者を育て地域産業としていきます。